

第3回ゲスト委員資料

一般社団法人前橋デザインコミッション
カフェ文化、パブリック・ライフ研究家
三菱地所株式会社 / 東京藝術大学

日下田ゲスト委員
飯田ゲスト委員
井上ゲスト委員

前橋市の 官民連携まちづくり

202501
Shin Higeta

都市再生推進法人
(一社)前橋デザインコミッション

MDC
Maebashi Design Commission

人物 ファイル

前橋市のまちづくりを担う民間団体、前橋デザインコミッション（MDC）で2020年5月から企画局長として働く日下田伸氏。ビジョンを掲げて民間主導で進む前橋での地域おこし活動に「魅力を感じて」宇都宮市からはせ参じた。前橋のまちづくりにおける「経営企画室」の一員として戦術を練っている。

05年に星野リゾートが石川県の老舗旅館再生を手掛けて注目された。当時、日下田氏は同社でこの案件など旅館再生事業の立ち上げに携わった。このほか東横インなど多くの企業で経営企画畑を中心に歩んできた。

前橋のまちづくりに関わる契機は同市に住む旧友だった。昨春に会った

前橋デザインコミッション企画局長 日下田 伸氏



際、民間主導による中心街活性化の動きについて知り、縁あってMDCで働くことになった。

どこに魅力を感じたのか。日下田氏は自らの経験から事業再生には目指すビジョンとそれに基づく戦略が必要と語る。前橋が目指すのは「事業」でなく「まち」の再生だが、その2点が備わっている。官民共同で16年に策定したビジョン「めぶく」と、その実現に向けて19年に定めたまちづくり指針「前橋市アーバンデザイン」だ。

活性化のためビジョンを掲げる地域は珍しい。まちづくり指針の推進役として民間がMDCのような組織を立ち上げた

前橋のまちづくり「司令塔」

ひげた・しん 1966年東京都生まれ。筑波大卒、日大大学院修士。清水建設、東横イン、星野リゾートなどを経て2020年5月から現職。

もまれた。このためMDCの役割は理解が難しい。日下田氏は「まちづくりにおける経営企画室」と説明する。ショッピングセンターなら建設前に専門家が商圏を調べ、開業も顧客動向を分析し、客に役立てる。一方、心街地にはそうしな命令塔がない。MDCは通りの数などを調べ、マーケティング面を支援することで「まちなみ」や店舗経営など、中街に関わる各事業全体を成功を上げた。それがあれば若者ら新たな挑戦をまちなかに呼び込める。（日下田氏）

自らは宇都宮に生まれ、今は前橋へ単身移住した。日下田氏は「京都市はどんなに素晴らしいのか日本人なら誰もが知っている。前橋もそんな個性のある街にしたい。前橋のまちづくりに協力したい」と話している。（前橋支局長 吉田 浩一）

- 鹿児島県立屋久島高校 '85
- 筑波大学農林学類 '89
- 日本大学・修士(国際情報) '04
- 宇都宮大学・博士(工学) '24
- 東北大学産学連携教育イニシアチブ育成プログラム修了 '24
- 宇都宮大学客員教授 '25
- 学部新卒から12年間、清水建設で主に中東・中央アジア等での環境案件を担当。
- 東横インの経営戦略責任者として初期のビジネスモデル・ブラッシュを行う。
- 星野リゾートで旅館再生事業（「界」ブランド）を立ち上げる。ハード・ソフトの一貫再構築、ゴールドマンサックスとの投資モデル化を実現。
- 以降、環境ベンチャーや医療法人、介護会社、住宅会社、ゼネコン等の事業再生コンサルティングやTOTOやPanasonic等の経営コンサルティングを手掛ける。
- 20年5月から現職にてはじめて「まちづくり」に従事。

前橋デザインコミッション(MDC)は 民間会費のみによる一般社団法人

今までの「エリマネ」と
ちょっと違う

基本的に事業者
(プレーヤー)ではない

開発事業は都市再生法人として
モデル的事業のみを推進

「めぶく。」を
支援する

戦略的ファシリテーション

まちの挑戦者の
勝率を上げる！

科学的マーケティング

MDCは「アーバンデザインの推進組織」

- まちづくりプレーヤーの支援・発掘・育成
- アーバデザインの定着ブラッシュアップ
- 都市再生推進法人としての事業
- 19年11月設立、実質稼働開始20年5月

- 役員：理事8、監事2
- 常勤：事務局長兼企画局長1，事務局1
- 兼業スタッフ：広報宣伝プロ
研修・人材育成プロ
データサイエンティスト

MDCの取り組み

馬場川 都市利便増進協定による
河川歩道公園整備事業

- 事業費3億円
- 23年度竣工

**BABAKKAWA
URBAN DESIGN
PROJECT**

◆ セミナー・ワークショップ開催
◆ ツール開発
参加し、わかる面白さ
初めての
まちづくりセミナー
無料

浸透

アーバンデザインの
推進

- ◆ 改定、ブラッシュアップ
- ◆ 評価システム開発

可視化

- ◆ BIM/CIMの高度利用
- ◆ AI動態モニタリング
- ◆ 快適性の定量化
- ◆ 交通シミュレーション
→ バーチャル前橋

実践

- ◆ 前橋レンガ・プロジェクト
- ◆ アーバンデザイン店舗改修
- ◆ アーバンデザイン大賞
→ アーバンデザイン実装

手法

民都機構
共助推進ファンド支援
第1号(22年)

国交省/内閣府
まちづくりSIB
第1号(21年)

PFS/SIB等まちづくり金融技術

前橋デザインコミッション主な受賞歴



Maebashi Design Commission

- ✓ **20年度**: 先進的まちづくり大賞
国土交通大臣賞
- ✓ 23年度: 全国エリアマネジメントネットワーク 研究交流会 アワード
- ✓ 23年度: 地域再生大賞 (NHK/共同通信/全国地方紙主催) 優秀賞
- ✓ **24年度**: ジャパンタイムズ Sustainable Japan Award 優秀賞
- ✓ **24年度**: 日本空間デザイン大賞 KUKAN OF THE YEAR (最高賞)
日本経済新聞社賞、公共空間部門金賞、サステナブル賞
- ✓ **24年度**: 土地空間活用モデル賞 都市みらい推進機構理事長賞
- ✓ **24年度**: グッドデザイン賞 Best100
- ✓ **24年度**: ウッドデザイン賞 奨励賞 (審査委員長賞)
- ✓ **24年度**: グリーンインフラ大賞 特別優秀賞
- ✓ **24年度**: IAUD (国際ユニバーサルデザイン協議会) 国際デザイン賞 銀賞
- ✓ **24年度**: 日本ファシリティマネジメント大賞
優秀ファシリティマネジメント賞

※最終審査段階: 日本建築学会賞、iFデザイン・アワード(ドイツ)

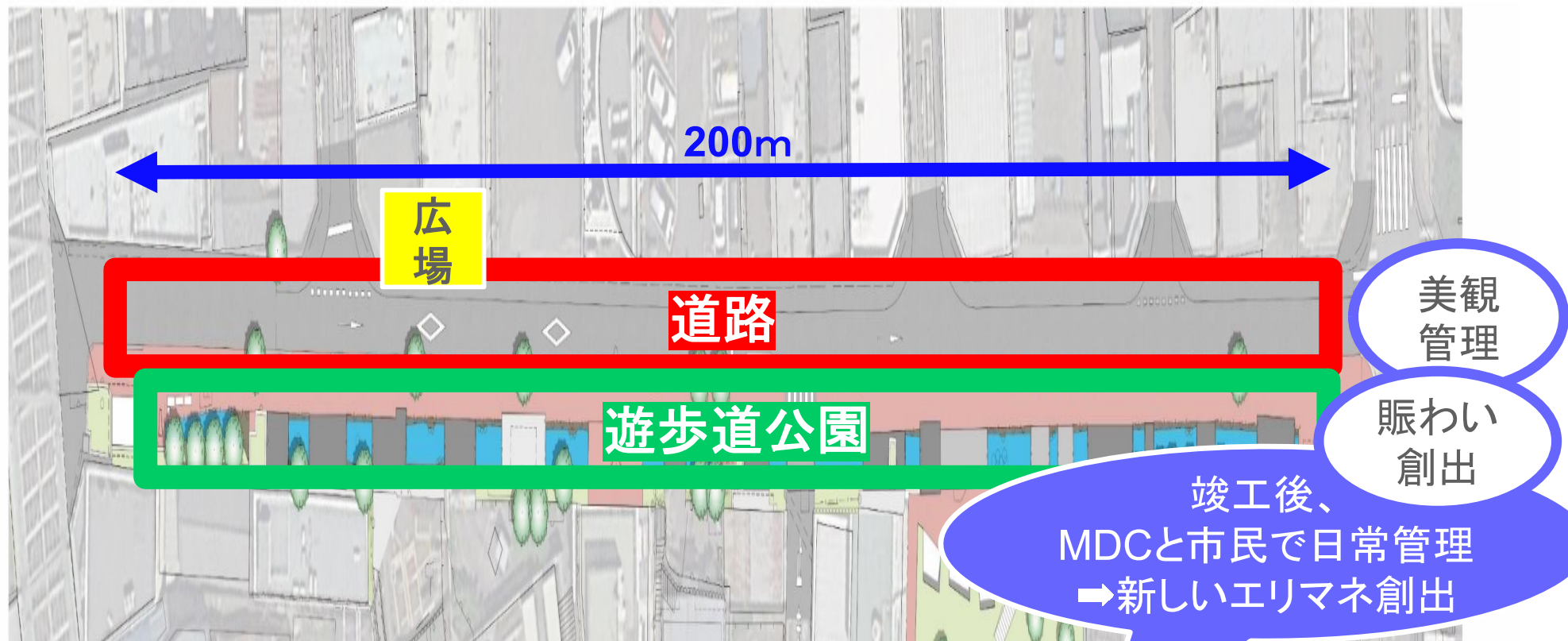


**BABAKKAWA
URBAN DESIGN
PROJECT**

馬場川通りアーバンデザイン・プロジェクト

公共空間の民間整備による効果

馬場川通りアーバンデザイン・プロジェクト全体像



➤ 都市再生特別措置法都市利便増進協定による公共空間・民間整備

国交省・民都機構共助推進ファンド＋民間寄付

➤ 計画策定・地域合意形成・エリマネジメント創出

国交省ウォーカブル事業＋民間寄付

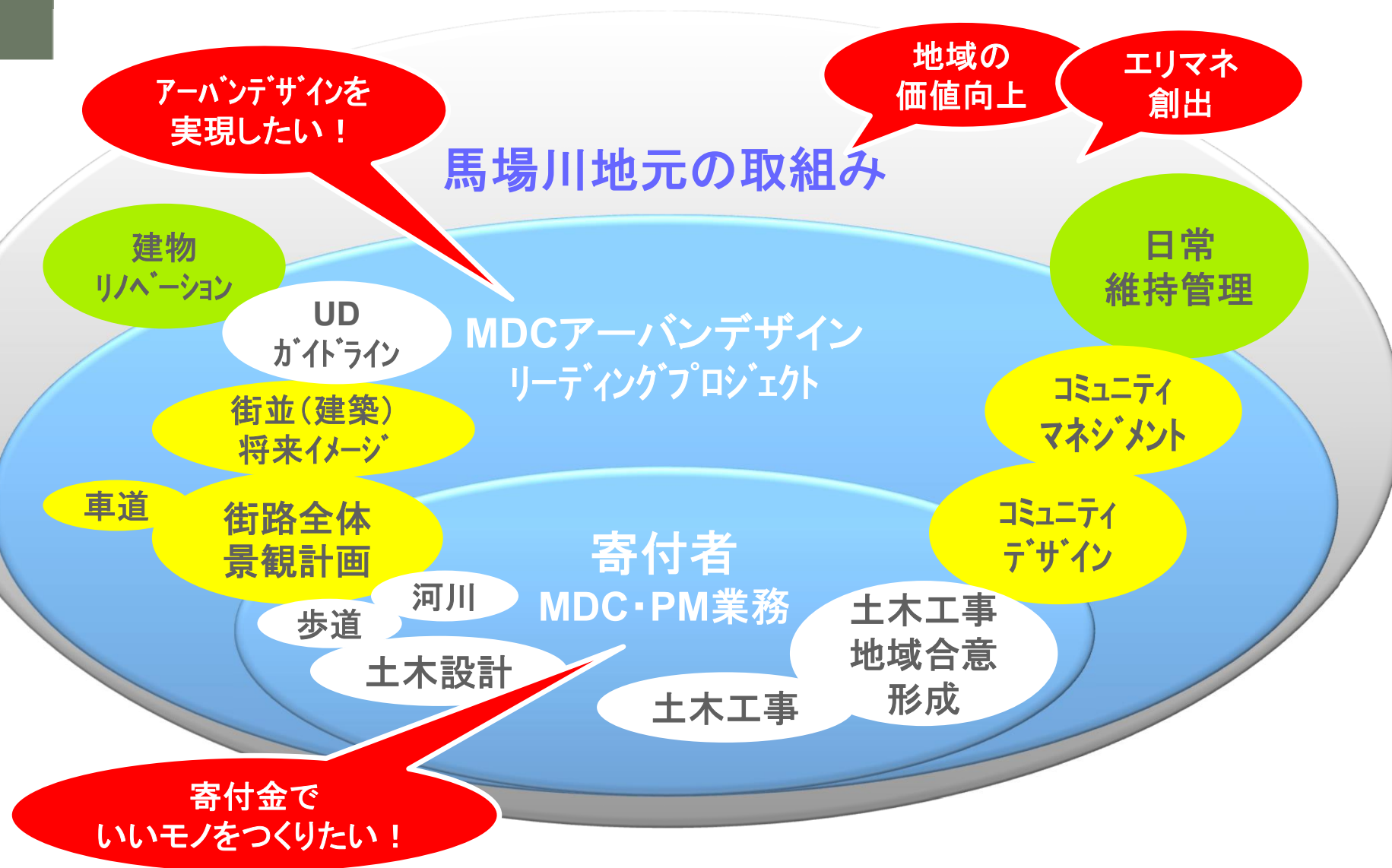
➤ 勉強会・社会実験

SIB事業(内閣府・国交省支援)

市が中長期管理を担う
官民連携

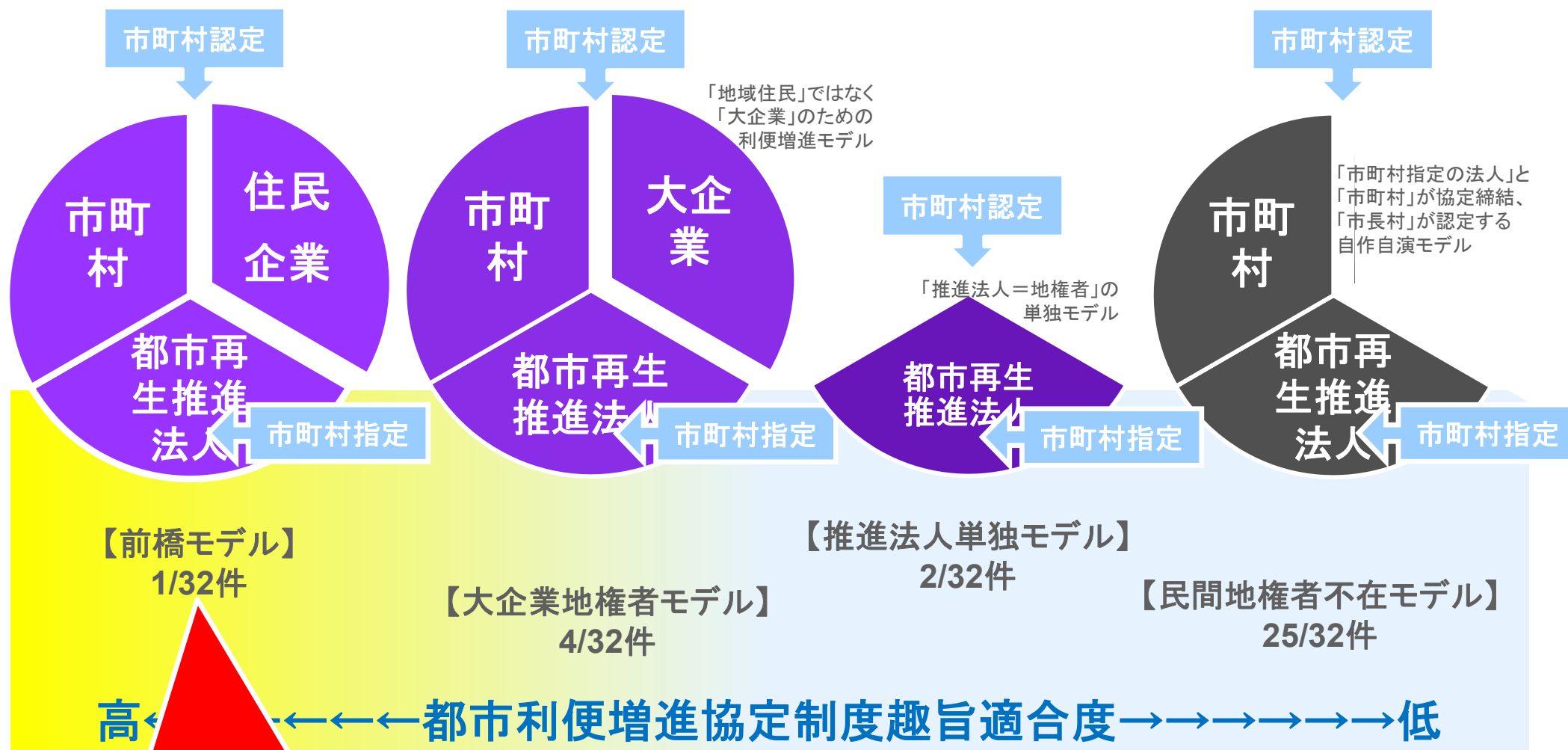
総額4.3億円
公共空間を民間で
街路整備と10年間のエリマネジメントを行う

馬場川プロジェクトの関係者構成



都市利便協定協定「締結者の組み合わせによる」モデル化

※2023年10月現在の締結内容による



【前橋モデル】は唯一だが、「例外」ではなく最も「制度趣旨に則った」モデル

都市利便増進協定は「**地域住民**」を巻き込んだ「**民間主体**」のまちづくりの仕組み

大規模社会実験

21年10月/22年5月
/24年4月



ストリートミュージック



ちゃんと一緒に撮影してみませんか？

あおぞらこども図書館

元気21の「こども図書館」が、300冊の本を持ち出して、馬場川に広げた芝生の上でのんびり読書しよう。
(協力: こども図書館)



社会実験で実物大モックアップを 市民が体感



照明デザインも
実証

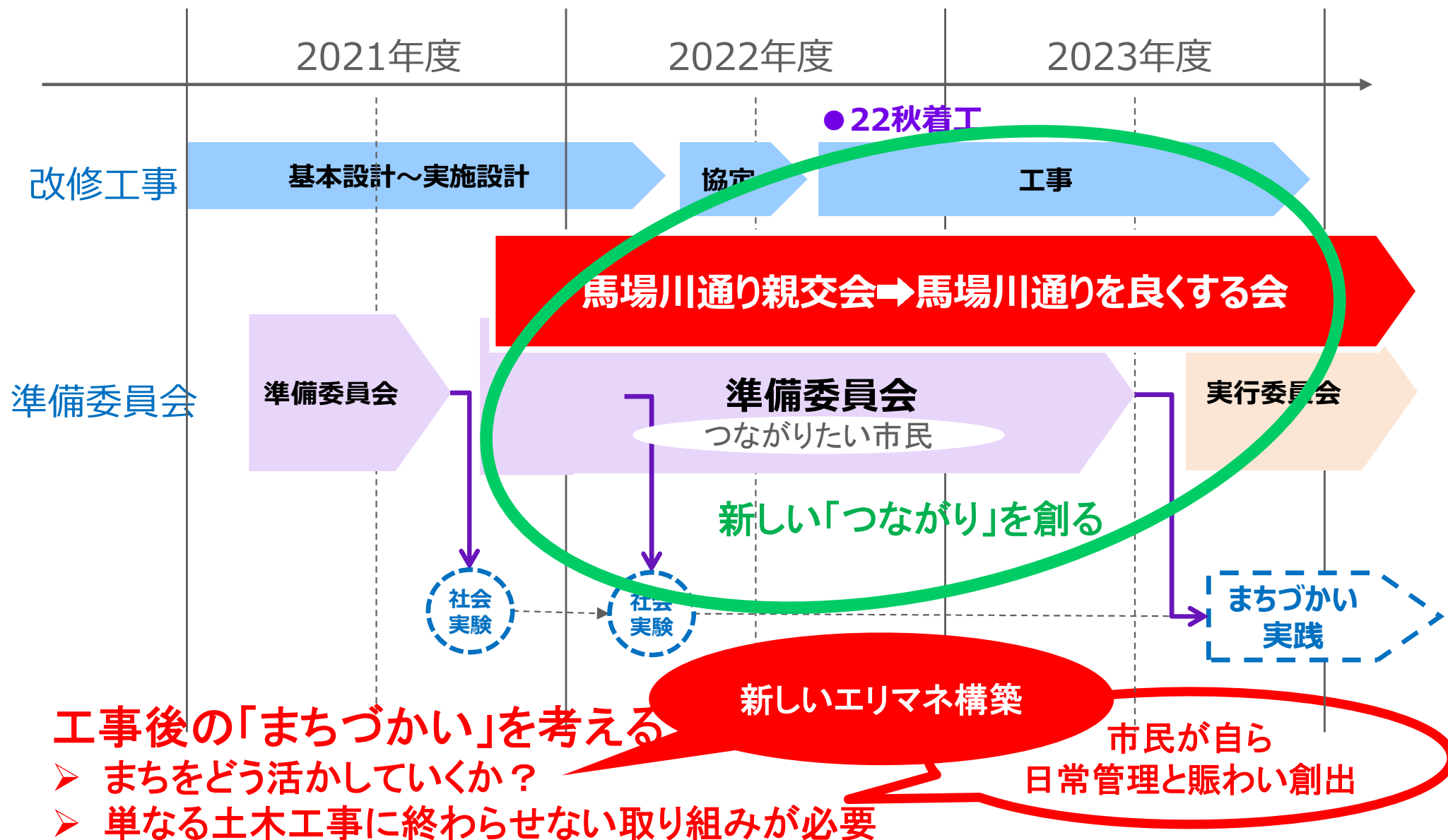


説明会・意見交換会も
同時実施



水面への映り込みも
デザイン

ハード整備とエリアマネジメントの創出





歩・車道20cmの段差を解消して、フラットなレンガ舗装で一体化

規制ではなくデザインで
実現するウォーカブル

歩行者が道を自由に歩くことで、
結果的に車速を抑制

Before

After





BABAKKAWA URBAN DESIGN PROJECT

馬場川通りアーバンデザイン・プロジェクト

国内初のまちづくりPFS/SIB

まちづくり分野初のSIB事業

行政
課題

市街地空洞化

事業
目標

にぎわい創出

成果
指標

歩行者通行量

事業
活動

勉強会
社会実験

国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

令和3年10月19日
都市局まちづくり推進課

前橋市が市民と共に“本気で”取り組む、まちづくりの新しいしくみが始動！
～前橋市のソーシャル・インパクト・ボンド導入を支援～

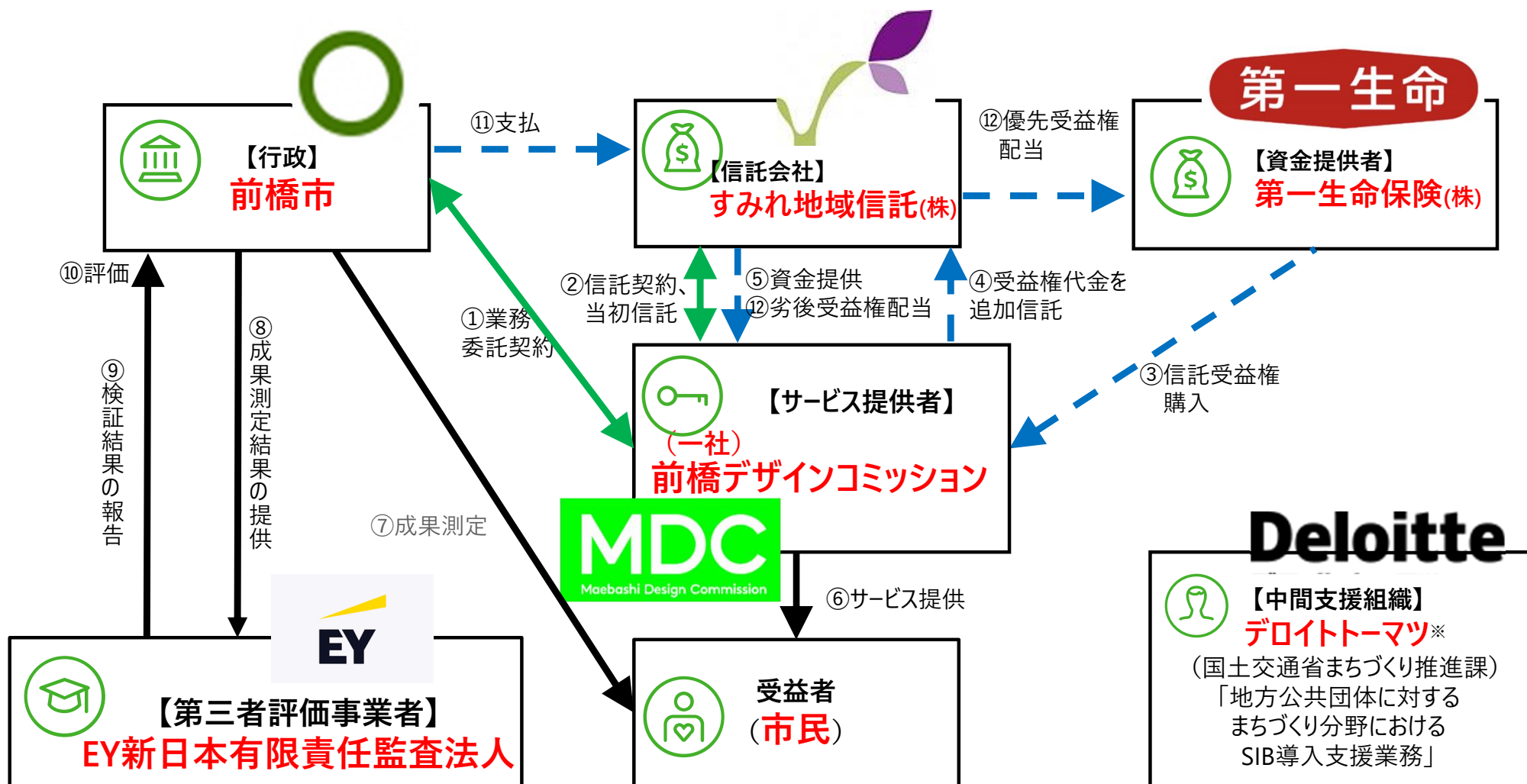
前橋市と一般社団法人前橋デザインコミッション（群馬県前橋市）は、第一生命保険株式会社（東京都千代田区）と連携し、地域コミュニティの再生やエリア価値の向上を図る民間まちづくりの支援に「ソーシャル・インパクト・ボンド（SIB）」を活用したスキームを構築しました。

SIBを導入することで、民間事業者の創意工夫を活かせるとともに、民間事業者に対し事業開始前の資金提供が可能になり、民間まちづくりの一層の進展が期待されます。

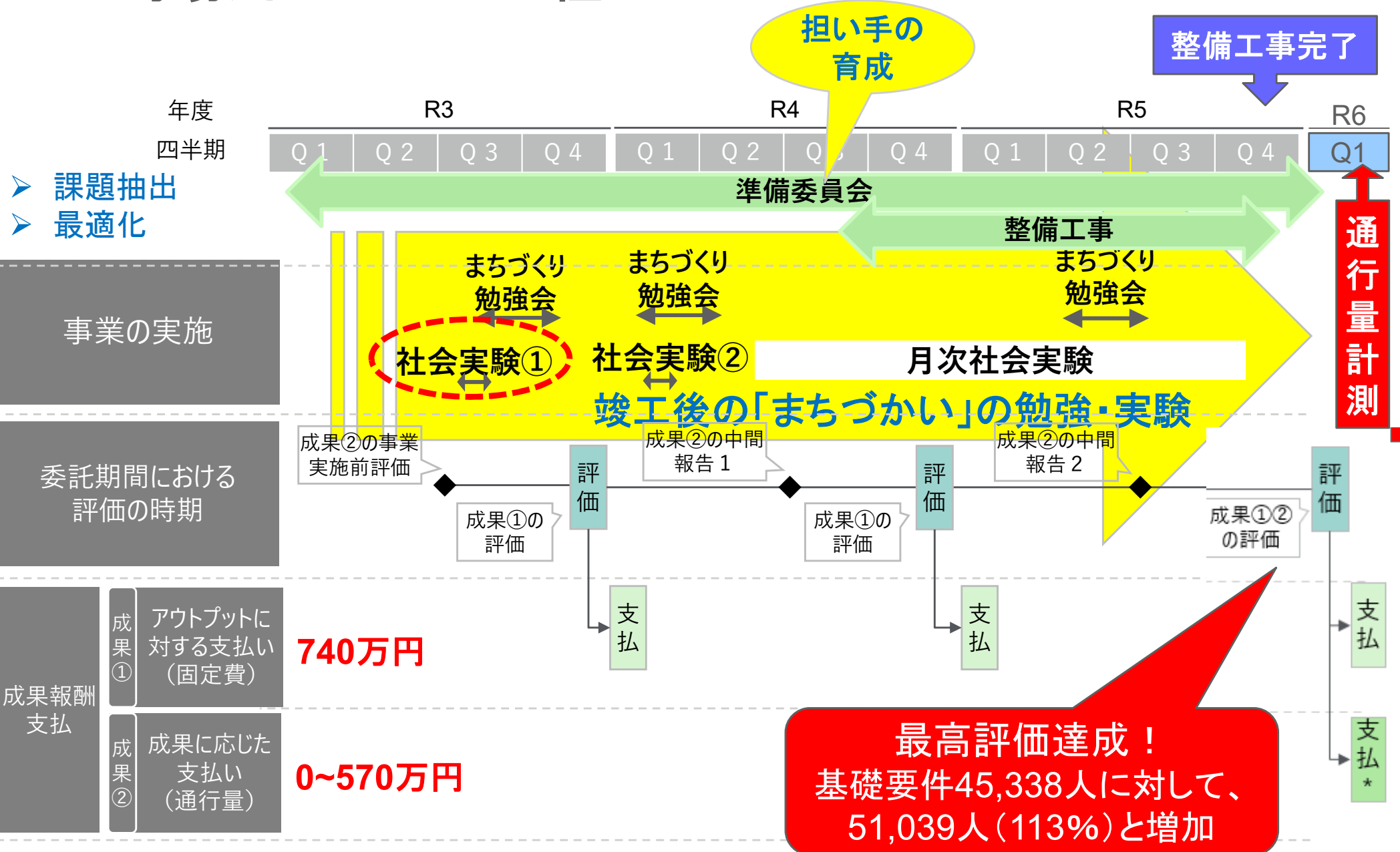
こうしたまちづくり分野において、SIBを活用することは全国初の取組になります。国土交通省は、前橋市の取組に対し、専門家の派遣などにより支援しました。

前橋市アーバンデザイン推進事業SIB

- 2021年10月～2024年7月：成果測定24年6月（一カ月間）
- 成果指標：歩行者通行量
- 支払規模：定額支払740万円＋成果連動支払0～570万円



馬場川PFS/SIB工程





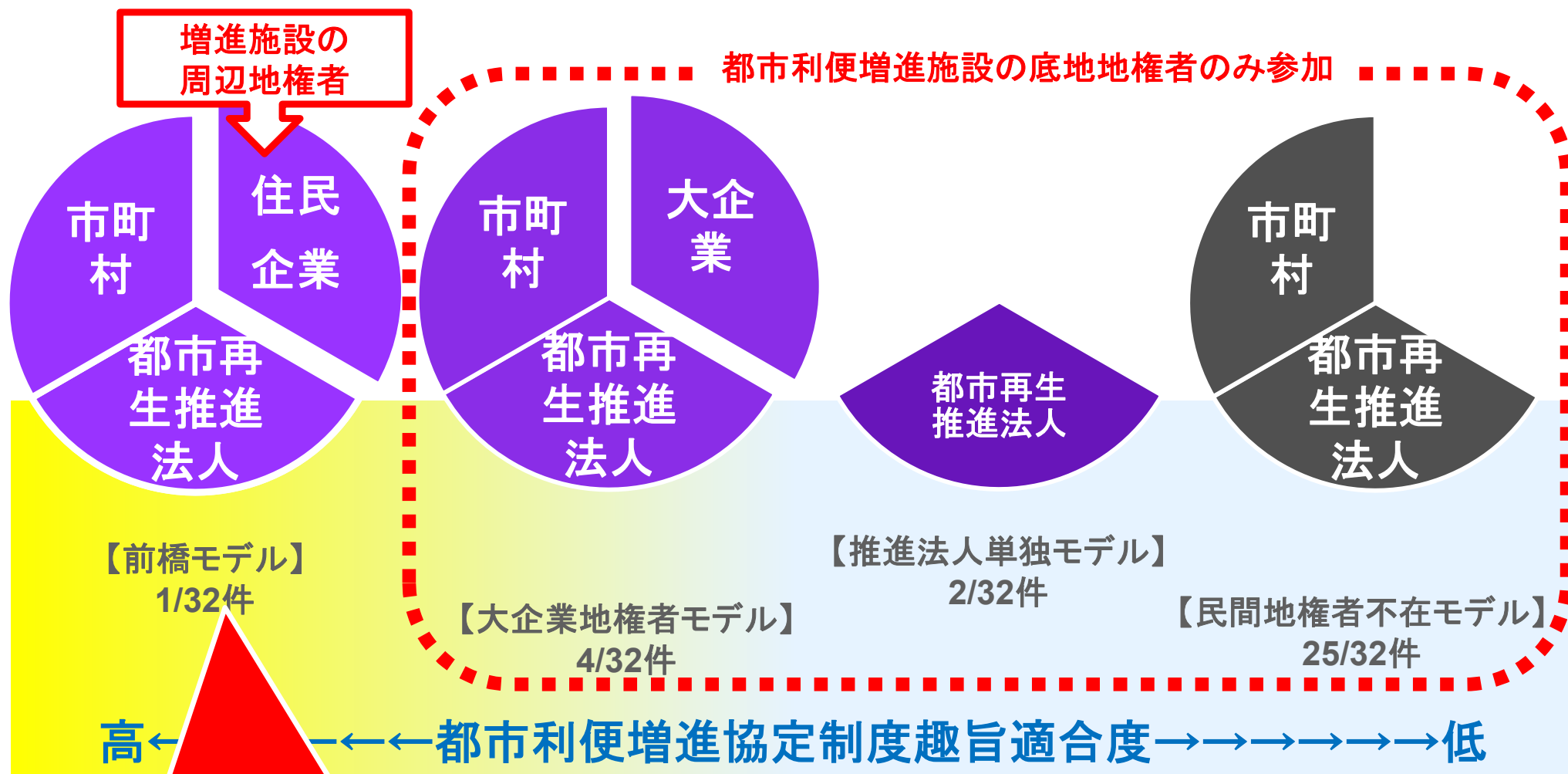
**BABAKKAWA
URBAN DESIGN
PROJECT**

馬場川通りアーバンデザイン・プロジェクト

民間投資喚起

都市利便協定協定「締結者の組み合わせによる」モデル化と地権者属性

※2023年10月現在の締結内容による



- 唯一、「接する土地地権者」30者が参加
- 地域としての「民間主体」の取組み

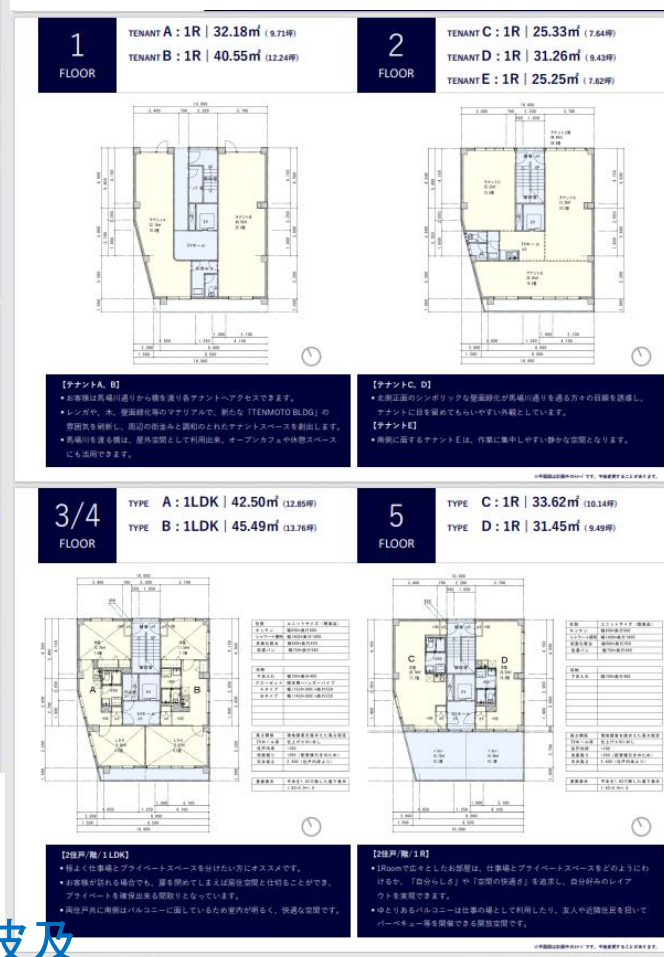
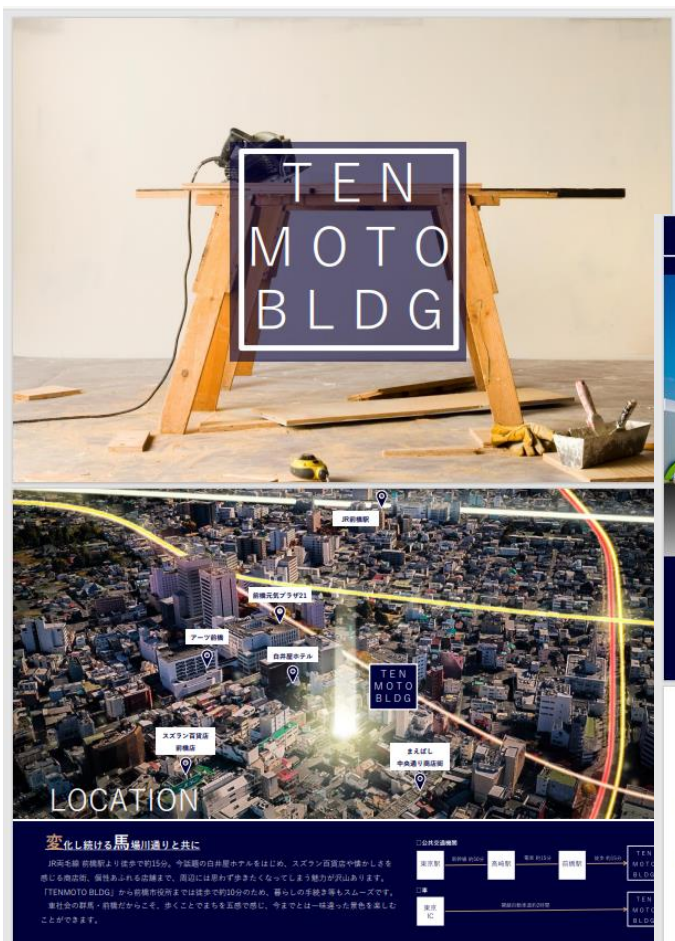
国土交通省：
底地地権者だけではなく「接する土地地権者」も
参加することが「有効なアプローチ」



BIMリノベ・プランを作成・地権者へ提供



民間投資モデルの実現

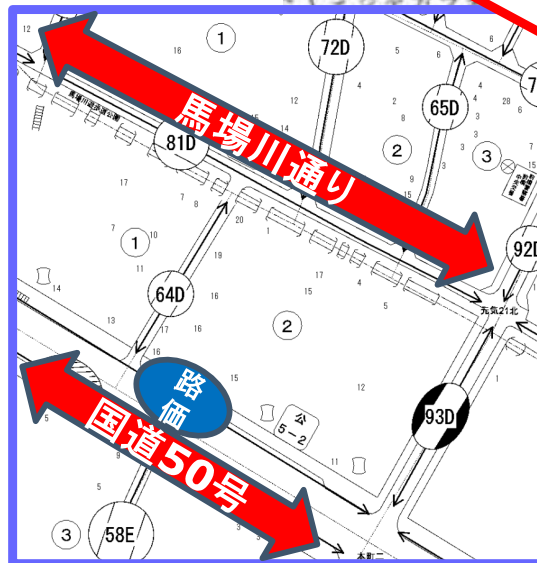


- ✓ 馬場川プロジェクトに連動
- ✓ 地元財界でSPC(合同会社)組成
- ✓ 投資モデルとして沿道ビルをリバーションして収益化
- ✓ 域外からの投資に委ねないことで経済効果を地域内に波及

価値向上の 定量的指標の一つ

前橋市の中心市街地である本町2丁
目が**32年ぶりに上昇**した。北側の市
道「**馬場川通り**」が**整備**され、……

※北関東他ケースは
LRTやTXといった鉄道投資効果による



路線価、茨城2年連続上昇

TX沿線 不動産需要根強く

関東信越税務局は1日、相続税と贈与税の算定基準となる2024年の路線価（1月1日時点）を発表した。北関東では茨城県内のつくばエクスプレス（T-X）沿線が都心への近アクセスから不動産需要が旺盛で、県内の標準地地の平均変動率は2年連続で上昇した。栃木・群馬両県は32年連続で下落したが群馬はマイナス幅が縮小した。



栃木県では23年夏開業の「芳賀・宇都宮LRT」が発着する「R宇都宮駅東口ロータリー周辺」が最高地点（宇都宮市南）



北関東で最高路線価の上昇率が最大の守
駅西口ロータリー。T X沿線の不動産業
は割安感もあり根強い（茨城県守谷市）

橋本 LRT発着地は堅調／群馬 マイナス幅縮小

税務署別最高路線価（上位3地点）

	つくば市妻ま1丁目 つくば駅前広場線	33万円 (6.5%)
茨城	水戸市宮町1丁目 水戸駅北口ロータリー 守谷市中央1丁目 守谷駅西口ロータリー	22 (一) 20.5 (7.9)
	宇都宮市宮みらい 宇都宮駅東口駅前ロータリー	33 (3.1)
栃木	小山市駅東通り1丁目 市道25号線	12.5 (一)
	足利市朝倉町 国道293号線	5.8 (▲1.7)
	高崎市八島町 市道 高崎駅・運進町線	16 (一)
群馬	前橋市本町2丁目 本町通り 太田市飯田町 太田	13.5 (3.8)

(注) 路線価は1平方メートルあたり。カッコ内は前年比。▲はマイナス。－は横ばい

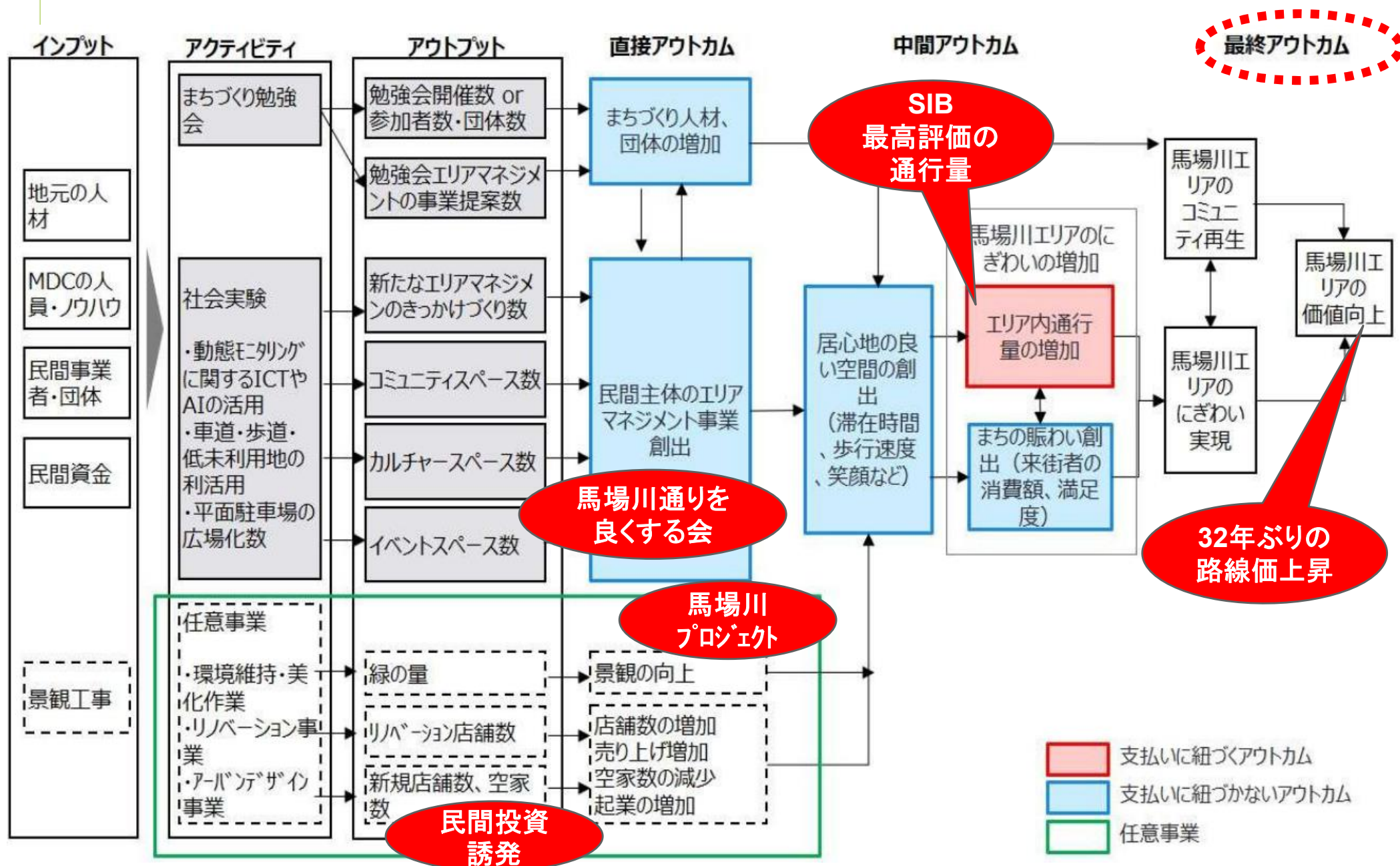
以上算傾向が働く」と予想する。

群馬の景況感改善

日銀6月短観、茨城は悪化

前橋市の中心市街地である本町と千住が32年ぶりに上昇した。北側の市道「馬場川通り」が整備され、オアシスやカフェが入る複合ビルも完成した。不動産鑑定士の吉沢雅巳氏は「オアシス需要が伸びた」とみる。また、都道府県別市街地

「SIBによる前橋市アーバンデザイン推進業務」ロジックモデル

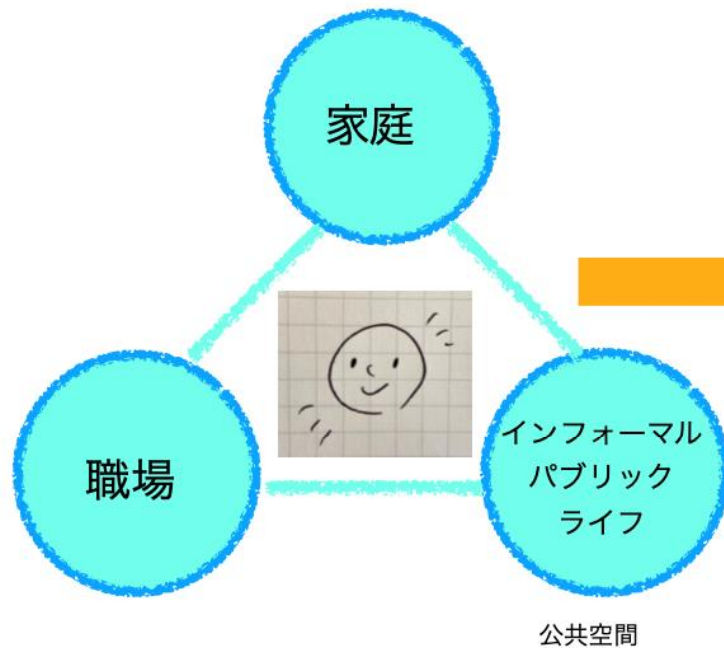


24年3月末馬場川通りアーバンデザイン・プロジェクト竣工、
新しいエリアマネジメントが準備段階から実行へ移行して
「まちづかい」がはじまっています。

インフォーマル パブリックライフを生み出す 7つのルール

インフォーマル・パブリック・ライフ

人はもともと3つの柱で
精神的なバランスをとっていた

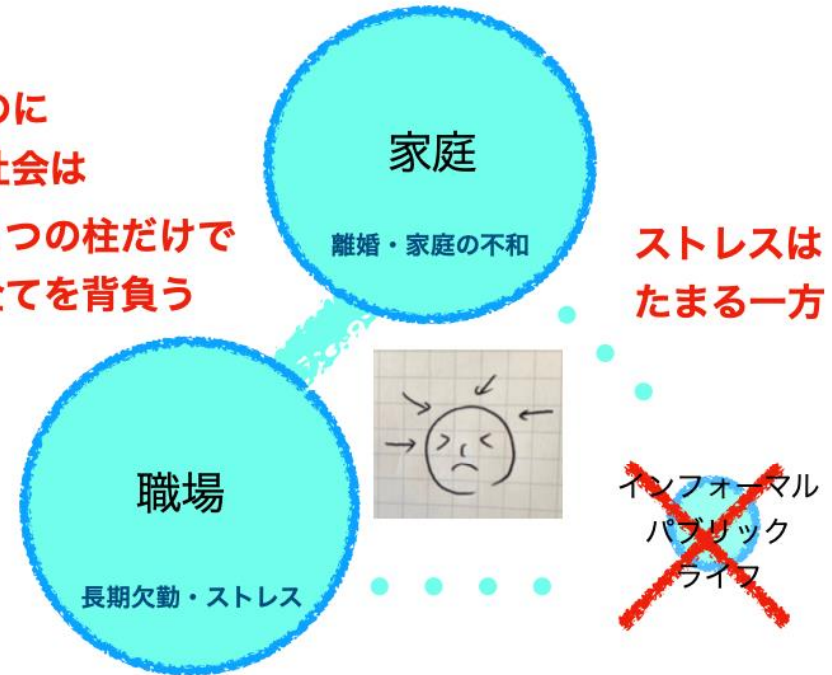


ヨーロッパの都市部は今でも
インフォーマル・パブリック・ライフが充実
特にサードプレイスのお手本はパリのカフェ！

サードプレイスはここ！

それなのに
アメリカ社会は

2つの柱だけで
全てを背負う



★ インフォーマル・パブリック・ライフとは

→老若男女が気軽に行けて気分転換のできる場、そこで過ごす時間
(広場、公園、川岸、海辺、市場、商店街など)

★ サードプレイスとは

インフォーマル・パブリック・ライフの中核となる場
知人や友人たちと気軽に出会って話ができる、つながりが生まれる
(カフェ、パブ、ドイツのビアガーデンなど)

そこは人の前向きで
幸せなエネルギーで
満ちている

そこでしばらく
過ごしていると
さっきまでの悩み事が
消えていく。

自分の知っている
狭い世界だけが
世界の全てではない。
もっと広い世界があったのだ

誰かと言葉すら交わさなくても
ちよつと前向きな気分になって
よし、頑張ろうと思える場

それが
インフォーマル・
パブリック・ライフ

ヴェネチア サン・マルコ広場





フランス ディジョン





インフォーマル・
パブリック・ライフを
生み出す7つのルール

インフォーマル・
パブリック・ライフを生み出す
ルール1

エリアの歩行者空間化

横断歩道で
走ったことは
ありませんか？

渋谷 スクランブル交差点



歩行者信号→約40秒
車→90秒
タクシー、バス
自転車、マリオカート



歩行者空間化がもたらす変化

- 道を選ぶには、車にひかれないという安心感が重要
- 車が通る道→街路でのアクティビティが減る。良識ある歩行者は交通事故から身を守るため、端に寄って身の安全を保とうとする。
- 真ん中は車用の空白地帯。斜めの横断は生じない。

東京 鮫洲商店街（東海道）



車社会の問題点

車社会からの脱却とパブリックライフ活性化

- この2つは車の両輪であり、どちらかだけではうまくいかない
- 地方都市の中心市街地活性化をしたければ、車社会から公共共通へと移行する方法を本気で考えなければいけない
- 車社会を放っておいたまま7つのルールを取り入れる→モールの一人勝ち。それでよいのか？
- 世界の先進的な都市は中心市街地から車を追い出している

地方都市＝必ずしもシャッター街ではない

- その街の車依存度とシャッター街度は正比例するのでは？
- 私鉄や市電などが少しでもある街と、そうでない街との違い
- 原宿、竹下通りの賑わいや渋谷のセンター街、新宿東口の賑わいは30年経ってもほとんど変わらないが、車社会の地方の中心地では驚くほど寂れてしまったところも多い
- →交通政策の見直しが必要！ ترام、バス・ラピッド・トランジット、自転車道、貸し自転車、駐輪場

A nighttime photograph of a street in Matsuyama City, Japan. The street is illuminated by streetlights, and the buildings on the left have lit-up windows. A car is visible in the distance. The sky is dark.

島根県 松江市中心部 19時

松江市 人口19万6千人





島根県 浜田市 駅前

人口 5万人





滋賀県
八日市 商店街



名古屋
大曾根



17時15分
大曽根商店街

高松市 人口40万9千人



熊本県熊本市 市電2路線





熊本市 人口 73万5千人



フランス ディジョン 歩行者空間

人口19万9千人



ウィーン 中心市街地





人口約200万人

日本の歩行者空間は？

- 東京、浅草仲見世、浅草アーケード街、原宿竹下通り、アメ横、築地場外市場（？）
- 大阪、心斎橋筋商店街、天神橋筋商店街、道頓堀
- 丸の内仲通り（時間限定）日本橋室町仲通り（11時-20時）
- 秋葉原、銀座、新宿（週末のみ）
- 横浜中華街のメインストリート
- 地方都市のアーケード街（京都寺町、新京極、錦市場、広島、神戸三宮、高松）

つまり
恒常的な歩行者空間は
目的地となり
人で賑わう！

インフォーマル・ パブリック・ライフを生み出す ルール2

座れる場所が豊富に
用意されていること

座れる場所の必要性

- 人の継続歩行距離は400～500m。人は歩くと疲れる存在
- →座る場所が用意されていると、疲れた時にそこで休憩できる
- →休憩できれば、そのエリア内のぶらぶら歩きを続ける
- ⇨休憩できないと、非常にネガティブな印象になる。次は訪れたくない

座れる場所の重要性

- 「座る場所が適切に用意されていることは、街や住宅地の公共空間にとって大切な意味を持っている。この点を特に強調しておきたい。**座る機会があってはじめて落ち着いて時を過ごすことができる。**この機会がわずかしかなかったり、貧弱だったりすると、人々はそのまま**通り過ぎてしまう。**」（ヤン・ゲール）

東京には座れる場所が少ない

- 浅草の仲見世（歩行者空間）→喫茶店に入る以外、座れない。浅草寺のトイレの横にベンチ。
- 築地の場外市場→狭い店のゴミ箱の前で立ち食い
- 原宿、竹下通り（歩行者空間）→クレープが名物だが、立ち食いしかできない。





一方で
日本の商業施設は

横浜 たまプラーザテラス



銀座シックス

T BANG
KENJI
YANOBE

CATの大冒険

Great Adventure"



ニューヨーク ブライアントパーク



ウィーン ミュージアム・クォーター

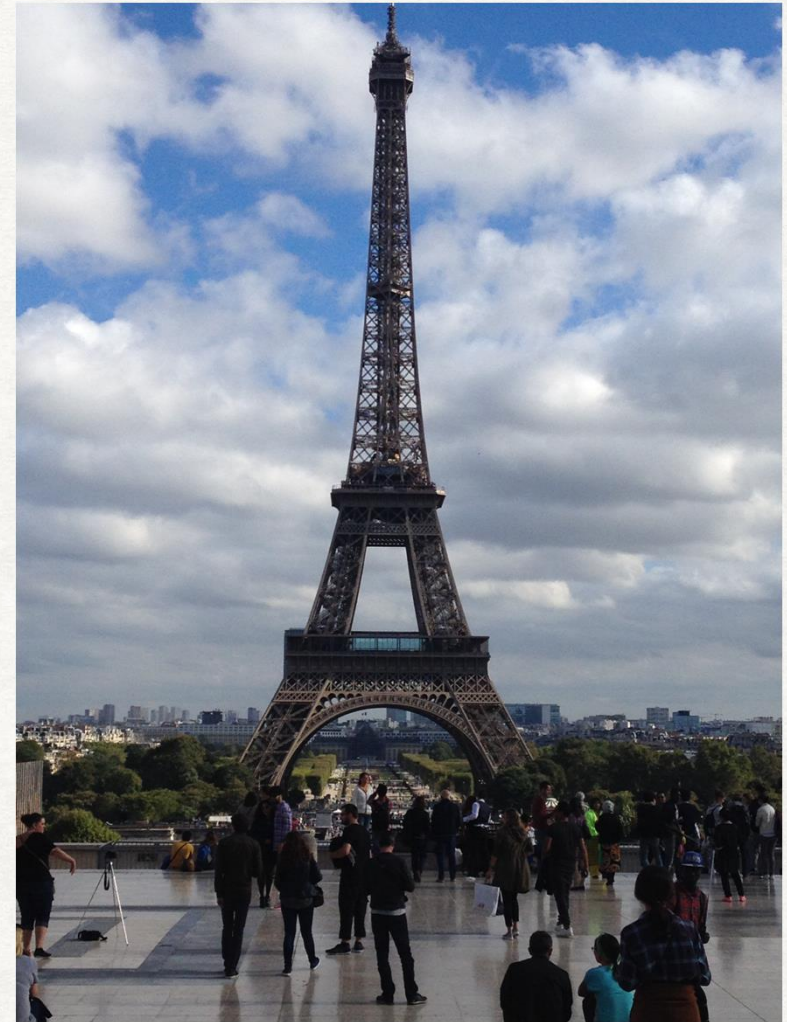


インフォーマル・
パブリック・ライフを生み出す
ルール3

ハイライトのまわりに
アクティビティを凝縮させる

ハイライトとは

- ハイライト＝ある地名を言われた時に人の心にパッと思い浮かぶ場所
- パリのエッフェル塔、凱旋門、ベネチアのサン・マルコ広場、NYのタイムズスクエア



イタリア ヴェローナ



人口64万2千人

ハイライトのまわりにアクティビティを凝縮させる

- ・ パリ：凱旋門とシャンゼリゼ大通り
- ・ ヴェローナ：アリーナとカフェ
- ・ 日本の例：浅草寺と仲見世、清水寺とその周辺
- ・ ハイライトは強力な磁場であり、そのために新幹線や飛行機に乗ってやって来る。その周辺に店などを凝縮させると人で賑わう。







È NATA L'OMBRELLONE VELA VERDE DEL
È NATA GLI OMBRELLONE VELA VERDE DEL

PASSIONE
VOLANTE
VOLANTE VOLANTE VOLANTE
MUSEO 14 luglio 2010
MUSEONILS

ALDI



インフォーマル・
パブリック・ライフを生み出す
ルール4

エッジから人々を眺めていられる

エッジから人のアクティビティを眺めていられる

- ハイライトを中心としたエリアのエッジに、人を眺めていられる場を配置すること
- 広い空間や街路全体に賑わいをもたせるためには、まずエリアの境界部に人を滞留させることが重要。人が集い始めるのは広場の中心からではなく、いつもエッジ、建物の外壁付近から。
- 人は背後に目がついていないため、背後からの攻撃を恐れている。電車、レストラン、広場→どこでも端から埋まっていく

フランス パリのカフェ



人は人の活動を見たい

- 植物や自然よりも人の活動に人は惹かれる
- それは子供も大人も同じ
- 人が集まるところに人が集まる
- 手入れの行き届いた遊歩道⇔モールの店内
- →エッジ部分にたたずめる、休める場所を作るのが重要



インフォーマル・
パブリック・ライフを生み出す
ルール5
歓迎感のあるエッジをつくる

エッジのあたたかみ、歓迎感

- 歓迎感として重要なもの：一見の客、通りすがりの人も喜んで受け入れてくれることが伝わるサイン
- 店の外に商品が陳列されて手にとれる
- 香りがする
- 店員さんが声をかけてくれる
- 閉店時でもショーウィンドウに明かりがついていて覗ける
- エリア全体の統一感、清潔感
- →そこでは私が歓迎されている、大切にされていると感じられること



エッジのデザインの重要性

- 1 階部分のエッジさえ丁寧につくってれば、実はどんなに高層ビルの多い街でもそれほど不快ではない。（NY、香港）
- 丸の内ブリックスクエア→公園に見惚れていた人は、その後でそこが高層ビルの 1 階であったことに気づいて驚く（34階建て）
- 高層ビル街＝無機質で冷たいわけではない
- 問題は建物の 1 階部分のエッジをどうつくるか

東京 丸の内ブリックスクエア



無機質なエッジの場合

- 面倒くさがりやの歩行者は、エッジが無機質でつまらなければ、できる限りそこを避けようとする
- 「エッジがつまらなかったり、1階が閉鎖的で単調だったりすると、貧弱な体験しか得ることができず、歩くのが長く感じられる。プロセス全体が無意味で退屈になり、歩く意欲を失ってしまう」（ヤン・ゲール）

新宿駅西口 1日の乗降数は350万人！





新宿センタービル

インフォーマル・
パブリック・ライフを生み出す
ルール6
朝から夜まで多様な用途の混合

単一用途の場合

- 虎ノ門のオフィス街：土日は空いている店を見つけるのが難しい
- 霞ヶ関（官庁街）：コンビニすら存在しない。ドトールも土日は閉店
- 時間帯ごとの極端な利用の偏りをなくすべき（ジェイコブズ）
- 人が集まる時間帯をずらすために、多様な用途を混ぜ込むべき

ミクストユーズで成功した例：六本木ヒルズ

- 映画館
- ホテル
- 住宅
- オフィス
- レストラン
- ショッピング
- 美術館



ミクストユースの代表格としてのオープンカフェ



空間にも多様性がある



インフォーマル・
パブリック・ライフを生み出す
ルール7
飲食店の存在

街路に飲食店があること

- 「食物キオスクか屋外レストランをもつ広場は、そのような特徴をもたない広場より多くの利用者を惹きつけ活気づくばかりではなく、食物の露店はいっそう繁盛する結果になっている」（クレア・クーパー・マーカス）
- 飲食＝人の根源的な欲求であり、誰にでも共通するものであり、圧倒的な潜在的顧客がいる⇔温泉街の木製品や下駄。
- 飲食物を販売する＝通りすがる人を歓迎しているというサインになると同時に、ちょっと試してみようという気持ちが喚起されやすく、販売にもつながりやすい



飲食店のない広場 ヴェネチア





カントピドーリオ広場 ローマ



飲食店とテラスのある広場 ボルドー

人口101万人

オープンカフェは
7つのルールを内包する
小宇宙のような存在



日本に足りないのは
オープンカフェでは？

カフェとは？

人が口を開いて
自分の想いを語れる場

空間をつくるのは簡単だが
場をつくるのは難しい

場をつくるのは
人だから

国土交通省都市局

都市の個性の確立と質や価値の 向上に関する懇談会 資料

2025年1月15日
三菱地所株式会社
井上 成

井上成／Shigeru Inoue

三菱地所株式会社

エリアマネジメント企画部 担当部長

兼 新事業創造部 兼 中部支店

兼 一般社団法人大丸有環境共生型まちづくり推進協会（通称：エコッツェリア協会）理事

兼 NPO法人大丸有エリアマネジメント協会 アート・アーバニズム総合プロデューサー

兼 大丸有SDGs ACT5実行委員会 実行委員

兼 健康長寿産業連合会 健康都市モデルWG座長



東京芸術大学

芸術未来研究場 特任教授（2024/8～）

● 施設開発プロデュース

「Nagoya Slow Art Center」

2024/3

「Personal Wellness Clinic MARUNOUCHI」

2023/7

「有楽町SAAI」

2020/2

「有楽町micro FOOD&IDEA MARKET」

2019/12

「Medicha」

2018/6

● プロジェクトプロデュース(コトづくり)

「TOKYO WELLCITY by 東京芸術大学」

2024/4

「有楽町アート・アーバニズム(YAU)」

2022/2

「大丸有SDGs ACT5」

2020/5

「有楽町MICRO STARS DEVELOPMENT」

2019/12

「丸の内ヘルスカンパニー」

2019/4

直近5年の取組

有楽町まちづくりビジョン ～ 2023年11月 有楽町まちづくりビジョン策定委員会～

2. 有楽町が目指すべき将来像

新たな出逢い・交流・発信の拠点「TOKYOの何かに、誰かに出逢う街」
～有楽町で逢いましょう～

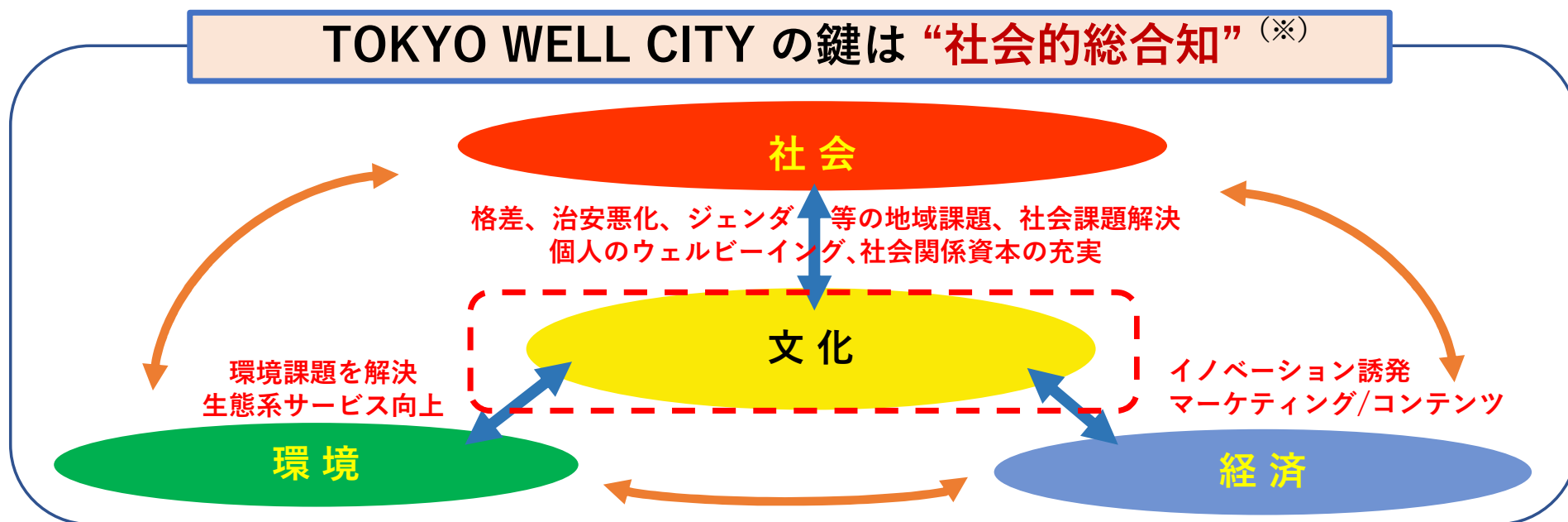
テクノロジーの進展により時間・空間を超えたコミュニケーションが容易になった時代だからこそ、人と人との出逢いやリアルな体験のつながり、そしてその連鎖によって情報が加速度的に渦巻き発信されるという都市ならではの価値、「新しい出逢いと交流の機会を提供するTOKYO」を体現する有楽町へ。周辺地区と機能的・空間的つながりをもって、まちぐるみで有楽町の魅力を高めるとともに、MICEに代表されるような拠点間の連携を牽引することで、東京都心ひいては日本経済の更なる成長に貢献する。時代の変化を柔軟に捉えつつ、常に新しい価値観を発信する仕組みとマネジメントにより、世界の都市からの注目を惹き続ける。



事例紹介① TOKYO WELLCITY 懇話会（2023年1月～3月開催）

主 催：大丸有環境共生型まちづくり推進協会（通称：エコッツェリア協会）

- 「個人のウェルビーイング向上」と「都市の持続可能な成長」の両立
- WELLBEING実現の為に、“文化”を中心に据えた“クワトロボトムライン”



(※) 社会的総合知：人文・社会科学と自然科学を融合した「総合知」の中でも、地域・人が越境することで社会的価値を創出する知。

[POINT]

文化が経済政策、環境政策、社会政策の重要な要素となる

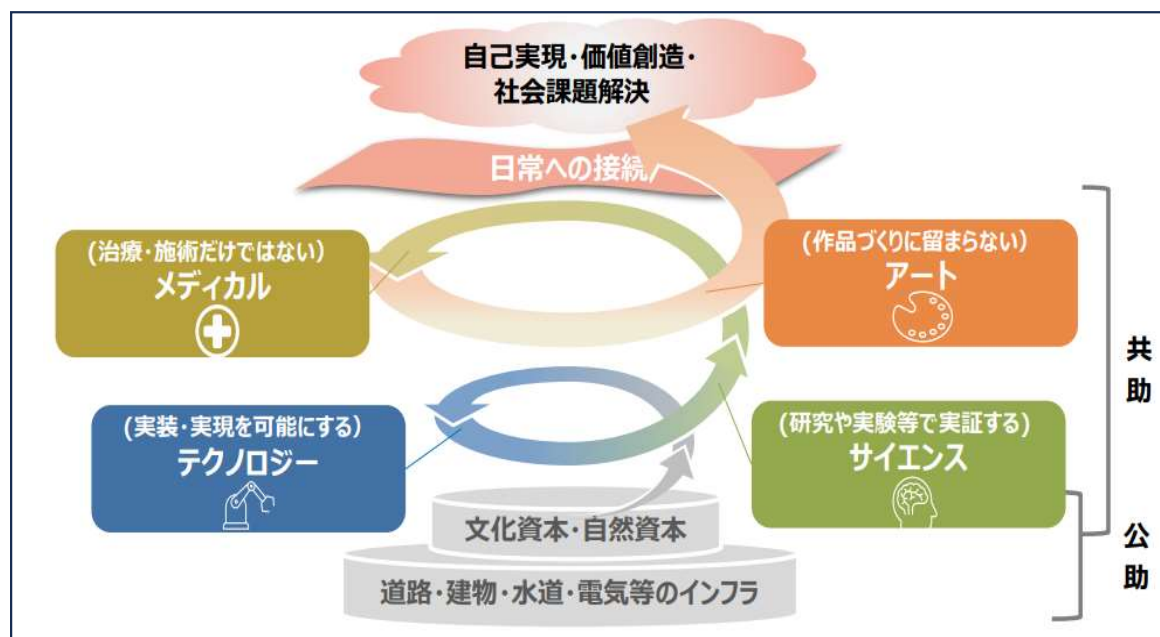
[POINT]

- ✓ 時間的・空間的・精神的 **余白**の創出
- ✓ 余白で提供する価値・・・
 - 豊かな時間**： 出会う、知る [学ぶ]、感じる、考える [内省する]、参加 [体験]する、安らぐ [ストレス抑制]、創造 [制作]する、表現 [発信]する、、、
 - 豊かな空間**： 修景に止まらない、多様性に優れ、豊かな時間を提供する機能・機会
- cf; バイオフィリック・デザイン・・・「人間は本能的に自然とのつながりを求める」というバイオフィリア理論を、都市設計やオフィス設計等に取り入れた方法論
- 生態系サービス・・・多様性豊かな生態系が提供してくれる恩恵。供給・調整・文化的価値・基盤サービスから構成
- ✓ 余白を生む・活用するための仕組み（5W1H）、マネジメント人材（領域を跨ぐ中間人材・アーバニスト [9 page参照]）の存在
- ✓ 余白活用の効果・価値の可視化／インパクト評価・・・豊かさを何で測るのか

事例紹介② 中核・特色ある研究大学強化促進事業

主 催：東京藝術大学 芸術未来研究場（2024年4月～）

- TOKYO WELLCITY懇話会のPROJECT化（詳細企画中）
- アートとビジネスほか異分野をつなぎ魅力ある都市を創生する「共創の場・仕組み・人材」づくり
- 個人や組織のWELLBEINGと創造性を高める多様なコンテンツの開発・実装



YURAKUCHO
ART URBANISM

事例紹介③

YAU

有 楽 町
ア ー ト
ア ー バ ニ ズ ム

アーティストと街の交流から
イノベーションを起こす

有楽町アートアーバニズム「YAU」

事例紹介③ YAU (Yurakucho Art Urbanism)

- 実施主体** : 有楽町アートアーバニズム実行委員会
(大丸有エリアマネジメント協会、大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会、三菱地所)
- 活動拠点** : 有楽町ビル10階 (2022.02-2023.10) ⇒ 国際ビル1階、7階 (2023.10-2025.3)
- 設立経緯** : 有楽町のまちづくりの一環としてクリエイティブ活動の流入・活性化を目指し、アーティストとの共創を推進する組織・拠点として2022年2月より実証プロジェクトを開始

アート×ビジネス	人材育成	ネットワーク形成	賑わい・文化振興
アート×ビジネス領域	ラーニング領域	アートコミュニティ領域	アート×まち・社会領域
<ul style="list-style-type: none"> ・YAU SALON ・アート×ビジネス相談 	<ul style="list-style-type: none"> ・藝大連携プログラム ・中間人材/アートマネジメント人材育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・SOUDAN ・交流プログラム 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなかアート活動 ・アート関連コワーキング



事例紹介④ “URBANIST CAMP TOKYO” supported by YAU

【実施者】都市体験デザインスタジオ for Cities

- アーバニスト育成・発掘が目的
- 都市の未来を考えていく為に必要なスキルを、調査・実践・検証を通して学ぶ6カ月間のプログラム
- 社会人を中心に20～30人が参加（参加費10万円）
- テーマ：「Re- Wilding / 都市の再野性化」



「Emotional City / 都市の“感情価値”」

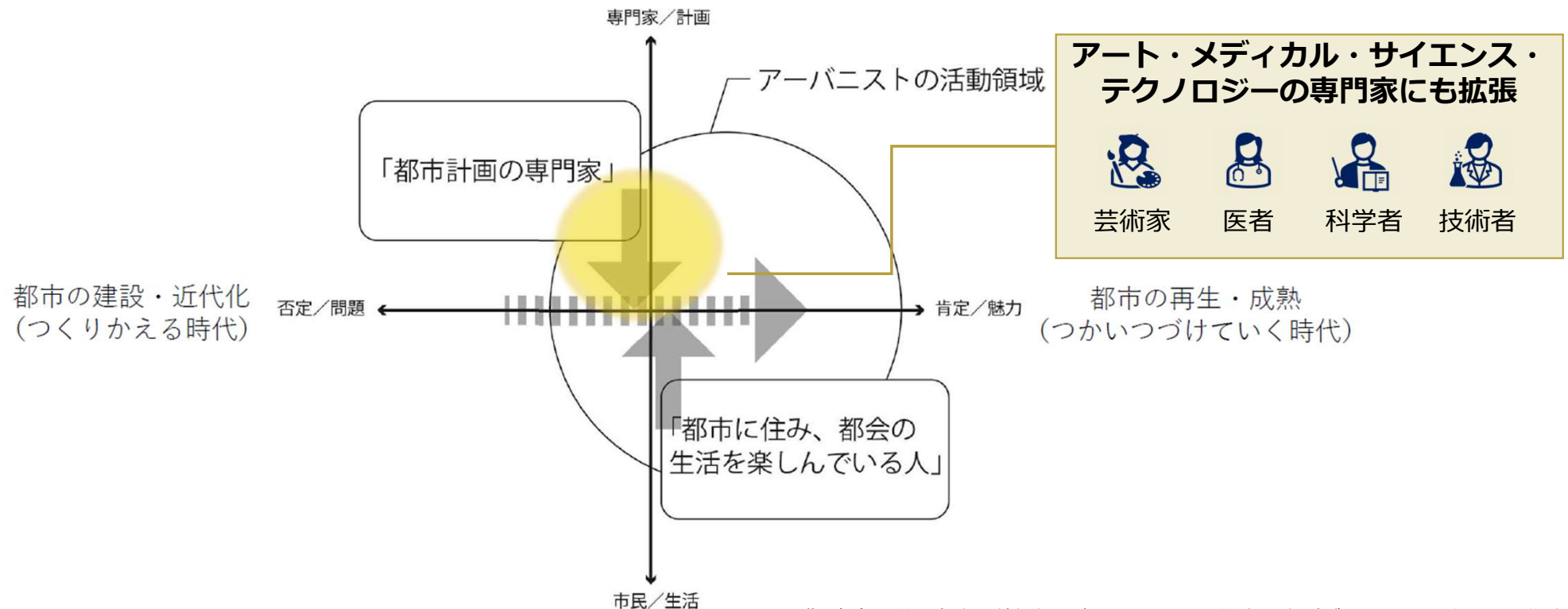
(2024)



アーバニストとは？ ～TOKYO WELL CITY懇話会資料より～

各領域の専門家が「魅力ある都市の創成者」としてまちを変える

- ウェルビーイングをテーマに、領域融合・地域融合を目指すTOKYO WELL CITYの枠組みにおいて、アート・メディカル・サイエンス・テクノロジーの専門家がアーバニストになりえるのではないかという仮説



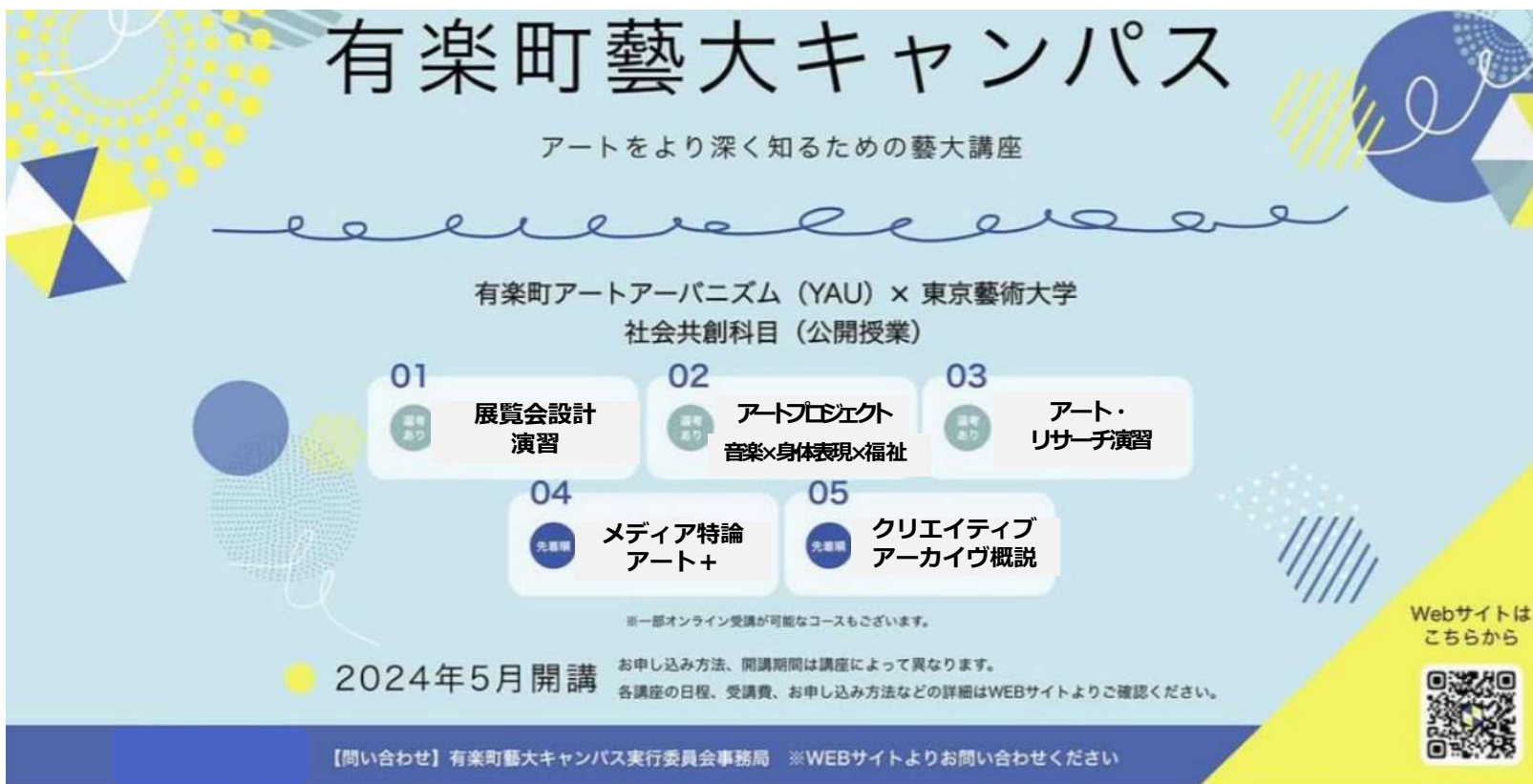
出所) 東京大学中島直人教授提供資料を基に三菱総合研究所が新たに図を追記して作成



事例紹介⑤ 有楽町藝大キャンパス

主催：YAU / 東京藝術大学 / 東京都（2023年4月～）

- 社会人（有料5～10万円）と藝大生（単位認定）との共同授業
- 領域をつなげる **中間人材の育成**



有楽町藝大キャンパス

アートをより深く知るための藝大講座

有楽町アートアーバニズム（YAU）× 東京藝術大学
社会共創科目（公開授業）

01 講座あり 展覧会設計 演習	02 講座あり アートプロジェクト 音楽×身体表現×福祉	03 講座あり アート・ リサーチ演習
04 先着順 メディア特論 アート+	05 先着順 クリエイティブ アーカイヴ概説	

※一部オンライン受講が可能なコースもございます。

2024年5月開講

お申し込み方法、開講期間は講座によって異なります。
各講座の日程、受講費、お申し込み方法などの詳細はWEBサイトよりご確認ください。

Webサイトは
こちらから

【問い合わせ】有楽町藝大キャンパス実行委員会事務局 ※WEBサイトよりお問い合わせください



事例紹介⑥ 有楽町S i t P a r k

After

Before



事例紹介⑦ 藝大ヘッジ (2016年～)



- 武蔵野の風景再生、40種を超える多様性（関東在来種）
- 「お世話隊」（藝大生、職員、地元ボランティア）が手入れ



事例紹介⑧ FUTURE VISION SUMMIT

主 催：FUTURE VISION SUMMIT実行委員会〔大丸有まちづくり協議会、Forbes JAPAN、LIGARE、YAU〕

開 催：2024年11月13日～15日 於：大丸有地区（丸ビル、三菱ビル、国際ビルほか）

概 要：ビジネスとアート領域からリーダーが集結し、未来に向けた問いと対話を発信する都市型イベント



- アートを軸に社会経済を考える初の都市型イベント
- 未来社会を体感できるカンファレンス&ショーケースの複合体験
- 分野や肩書きを横断して集う次代のリーダーたちが参加



※芸術未来研究場展@東京藝術大学（2024年11月27日～12月3日）と展示作品の一部を連携



人を、想う力。街を、想う力。三菱地所

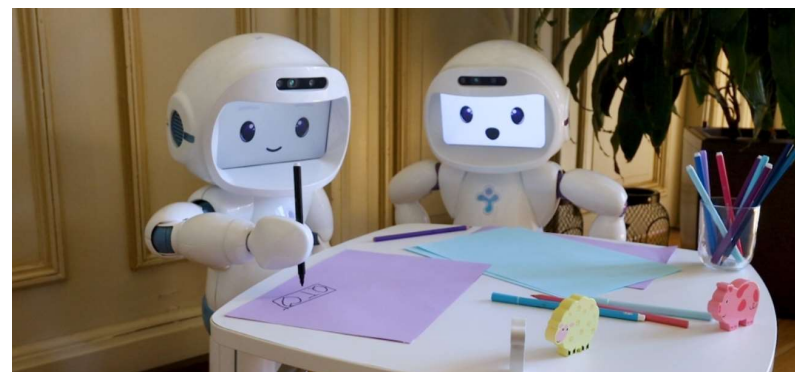
事例紹介⑨ 欧州文化首都（1985年～）

■ 欧州連合 (EU) が指定した都市で一年間にわたり集中的に各種の文化行事を展開する事業

- 欧州委員会が既に2033年まで開催国を決定済み
- 国内の立候補都市が開催権獲得に向け、地域住民、文化・経済・地域社会関係者とともに様々な準備活動を展開
- EU・ジャパン・フェスト事務局が架け橋（1993年～）



Kaunas 2022（リトアニア）



Esch 2022（ルクセンブルク）



Timisoara 2023（ルーマニア）



欧州文化首都のレガシー ～欧州委員会レポートより～

- (1) 都市を再生する
- (2) 都市の国際的認知度を上げる
- (3) 住民の目に映る、彼らの都市に対するイメージをより
良いものにする
- (4) 都市の文化に新たな息吹をもたらす
- (5) 観光事業を発展させる



The image features a light blue gradient background with several realistic water droplets and bubbles of varying sizes. Some droplets are partially cut off by the edges of the frame. The droplets have highlights and shadows, giving them a three-dimensional appearance. The word "FIN" is centered in the middle of the image in a bold, black, sans-serif font.

FIN